

校名：兵庫教育大学附属幼稚園

所在地：〒673-1421 兵庫県加東市山国 2013-4 電話番号：0795-40-2227

記載日：2016（H28）年 5月19日 記載者：岸本 美保子 記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本園は兵庫県の中央部やや南寄りに位置し、豊かな自然に恵まれた農村地域であるが、大企業の工業部進出とともに、阪神間からの転勤者も増加し、住宅も徐々に増加してきている。

本園の特色は、大きく次の3点が挙げられる。

○「うれしのタイム」

一人一人の子供が好きな遊びに取り組みながら、自分のしたいことに熱中したり、友達と様々なやりとりをしながら、共に遊びを創り出していく場として大切にしており、一日の保育活動の中で「学級・学年の活動」と同じように重要な位置づけをしている。



○「きっずくらぶ」（子育ての支援）

保護者自身が子育ての力を高めることを目指し、「保育参加」「園庭開放」「子育て講座」「子育て相談」などを実施している。

○大学・他校種との連携

大学教員の専門性を生かした活動や附属小・中学校及び公立高等学校との交流活動を、保育に効果的に取り入れている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡調査は特にしていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査は特にしていない。初期から在籍している職員が個人的に把握している程度である。

正規大学採用教員：他大学の教員、他幼稚園の園長、教員へ

正規人事交流教員：他市幼稚園の園長、教員、他大学教員へ

非常勤講師：他大学の教員、他市公立及び私立の幼稚園教員、一般職へ

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

ここでは、本園の特色である「子育ての支援」「大学との連携」に加えて、「地域との連携」について紹介する。

1. 子育ての支援

平成18年度～20年度にかけて、文部科学省委託研究「親育てプログラム」開発研究を受け、その成果を発展させて現在に至っている。

(1) 目的 保護者自身が子育ての力を高めることを目指す。

(2) 本園が重点的に取り組んでいる内容

- 保護者の育ちと園児の育ちがつながりをもった子育ての支援
- 園児の育ちとともに、保護者の育ちの課題を設定し、子育て力を高める
- きっずくらぶ（様々な形の保育参加を含む活動）を中心にした活動
- 地域とのつながりをもった子育ての支援

(3) 具体的な活動内容

- 「子育てひろば」（未就園児親子への園庭開放：地域とのつながりをもった子育ての支援）へのスタッフとしての保育参加
- 園の行事や学級の活動等へのスタッフとしての保育参加
（上記2つは、自発的な参加、担当教員と共に計画し、事前事後の話し合いを行う）
- 親子活動、弁当参加等の保育参加
（全員参加）
- 誕生会への参加と保育参加・懇談
（誕生月の保護者が参加、保育参加や園長・副園長との懇談も行う）
- 「にこにこ子育て講座」と保育参観
（PTA主催による年3回の子育て講座、講座の前後に保育参観も行う）
- 「おやじの会」として、園設備の修繕や親子参加プログラムの企画にあたる。
（父親の積極的な保育参加）
- 園長、副園長によるすこやか子育て相談、カウンセラーによる子育て相談

(4) 効果

- 子供の生活がわかる
- 遊びの楽しさがわかる
- 子供の育ちやよさがわかる
- 保護者がもっている力を発揮する
- 日頃の不安やストレスを発揮できる
- 仲間ができる
- 子供のためになる



(5) その他

・預かり保育の実施

「兵庫教育大学子供・子育て支援推進協議会」での協議を踏まえ、平成28年度より就労支援型の「預かり保育」（かんがるーるーむ）を実施している。

1) 預かり保育の時間

保育終了後から18時。長期休暇中は9時から利用が可能である。

2) 場所

本園の遊戯室の一角を区切った専用の部屋を設置している。

3) 定員

定員を30名としている。

4) 預かり保育指導員

常時2名体制で、リーダーの指導者は本園の担任経験者であり、職員との連携を密にとるようにしている。

2. 大学との連携

(1) 「兵庫教育大学就学前教育カリキュラム研究開発室」との連携

1) 「兵庫教育大学就学前教育カリキュラム研究開発室」について

本学では、文部科学省の特別経費事業「大学の機能強化としての就学前教育専門職（仮称）養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」のもとに、「兵庫教育大学就学前教育カリキュラム研究開発室」を設置しており、その一環として平成26年10月、本園の位置する山国キャンパス内の「やまくにプラザ」に、子育て支援ルーム「GENKi」が開設された。対象は、0歳児から未就園の乳幼児と保護者で、週3回午前中に「GENKi」を利用している。利用者はルームで自由に遊んだり、企画される様々な催しに参加したりしている。登録者数は年間約280人である。

2) 本園との連携・協力事業

平成28年度の本園入園児の中に、子育て支援ルーム「GENKi」に通っていた幼児が24名いる。そこで、入園までに「GENKi」スタッフから幼児や保護者の情報を共有する機会を得た。その際、「GENKi」で継続して記載している「プレイストーリー」（その子のよいところを中心に成長を記したもの）をもとに、引き継いだ。その他、「GENKi」との連携・協力事業として、園児が「GENKi」で歌を披露したり、幼稚園の「子育てひろば」の案内を持って行ったり、職員が「GENKi」参加保護者に「幼稚園の教育」について紹介したりと、日常的に情報を共有したり、連携を図ったりしている。

また、本園では、幼児の発達に応じて学年毎、学期毎に保育時間を決めているため、降園時間差がある。そこで、本園に在籍しており、かつ「GENKi」を利用している親子や本園にきょうだいのいる親子の昼食・休憩の場所として「GENKi」内と本園内に特別の場所を設置し、利用可能とすることで子育て環境を支援している。



(2) 大学教員の専門性を生かした指導

年間を通して、芸術系、健康系等の専門の大学教員の指導のもと、親子活動を行っている。また、園児が大学に出向き、陶芸活動を行ったり、散策に出かけたりして大学教員の指導を受けている。また、本園の保育の質の向上や研究推進のために、幼年教育系大学教員に定期的に本園職員が保育を公開し、事後の指導を受けたり、園内研への積極的な参加を依頼し、指導助言を求めたりしている。

(3) 大学院生の授業と「子育てひろば」との連携

大学院における「子育て支援コーディネーター」育成プログラムの授業「幼児期の子育て支援演習」の一環で、受講生が本園の「子育てひろば」に参加し、観察や実習を行っている。

3. 地域との連携

(1) 開かれた幼稚園づくり

「子育てひろば」(※前述の通り)

(2) 研究発表や公開保育

年2回の土曜開催の研究会を通して、公開保育及び研究の成果を発信し、地域及び社会に貢献している。県内外の国公立幼稚園・保育園・こども園の教員、大学教員、大学院生、各教育委員会より研究会への参加がある。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

研究発表や公開保育を年2回土曜開催で実施することにより、より多くの県内外の国公立幼稚園・保育園・こども園の教員の参加を得ている。保育の公開はもちろんのこと、自他大学教員による指導助言や講演会を提供することは、地域の幼児期の教育の質を高めることに貢献していると考えている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

1. 地域のモデル園としての情報発信拠点

研究会を通じた幼児教育関係機関への情報の発信や「子育ての支援」を含む地域との連携を通して、幼児期の教育の質を高めるための地域のモデル園としての役割を果たしている。

2. 幼児期の教育や子育て支援を担う質の高い人材養成を支える実習園

本園実習生の教員就職率は高く、採用園より高い評価を得ているだけでなく、各園で中心的な役割を果たしている者も多い。また、大学院生の授業においても必要とされており、地域の幼児期の教育や子育て支援を担っていく人材の養成に大きな役割を果たしている。